

# 向陽介護便り

平成26年1月 第93号

発行人: (株)向陽介護システムズ  
新宿区東五軒町1-12 青木ビル

TEL 03-3267-2015

## 夢物語

新しい年を迎えました。訪問介護やケアマネジャー、福祉用具の事業所を開始してから10回目の正月です。正直なところ、よくぞ10年近く会社を続けてこられたなあというのが私の本音です。会社を立ち上げた時には、50歳ソコソコだった私も、2年前に還暦という節目を通り過ぎ、あと何年現役を続けられるのだろうと考える機会が多くなりました。

国土交通省の有識者懇談会が、2050年には日本という国がどういう姿になっているのか、2050年を見据えた今後の国土計画や地域作りの指針を作るべく議論を始めているそうです。2050年ということは、今から36年先。もし、私が生きていとすれば100歳目前。36年後の日本社会は、ますます情報革命が進む上、リニア新幹線の開通等により物理的な「距離」が縮まり、国土がどんどん狭くなると感じるでしょう。

一方で、日本の人口は1億人程度に減り（今より、マイナス3千万人）全国の3分の2の居住地域では人口が半分以下になる見通して、東京・大阪・名古屋の三大都市圏を除けば、概ね「人口半減社会」に突入することになります。

このまま、有効な対策が打てずにいると、日本各地で地域社会は崩壊し、地方経済は構造的に衰退し続けることになるのです。

「淡路 恵子」さんが11日、80歳の人生を終えられて旅立たれました。

60年前彼女が最初に結婚した相手はフィリピンの歌手ピンボー・ダナオ氏でした。戦前や戦後直後のフィリピンは、当時の日本よりも豊かであったと、聞いています。ただ、その後、国の運営において混乱が続いたことから、経済発展に遅れを取るようになり、いつしか「アジアの病人」と揶揄される状態に陥っていました。日本も少子高齢化・人口減少社会という難題に対し、国を挙げて今から対策を講じていかなければ、日本が「アジアの老人」と呼ばれる日が来るかもしれません。

幼い頃、バナナは大変高価な食べ物で、小学校の遠足か病気になった時くらいしか口にすることができませんでした。今は、ごく身近な果物となっています。日本で食されているバナナの9割超が、フィリピンのミンダナオ島産なのです。

今年もミンダナオ島のダバオに出かけます。私にとって人生あと20年！日本の将来の介護問題を解決してくれる糸口を、ダバオ（ミンダナオ島）で見つけ出す私の「夢」の実現に向けて……（出かけます）。



ダバオのPNJK日系人学校で日本語を学ぶ小学生



ダバオで介護を受ける日本人



ダバオ市内のバナナ集荷場



長期滞在検討中の日本人グループ

